

第2回検討委員会における指摘事項と対応(1)

資料1

委員	指摘事項	対応	計画書該当P
橋本 委員 (宮城県防災砂防課)	マグマ噴火時の噴出量の最大規模である1,000万m ³ (DRE)の妥当性について	避難を含めた緊急減災対策砂防計画で扱う噴火規模は、過去1万年間の噴火活動におけるマグマ噴火1回あたりの最大量である1,000万m ³ (DRE)は妥当としています。	P20
村上 委員 (蔵王町長)	今回の氾濫解析に用いた地形モデルは20mメッシュであるが、今後、地域防災計画を作成する際の避難経路等の検討に際し、より精度の高い2mメッシュの地形モデルにより氾濫解析を実施する必要がある。	数値シミュレーションのモデルは、流動深が大きく流速の早い融雪型火山泥流に対して2mメッシュでは、浸水範囲が狭まる箇所が発生することから検討会では従来どおり20mメッシュの計算結果としています。	—
村上 委員 (蔵王町長)	融雪型火山泥流の想定では、流木が考慮されていないが、流木により橋が閉塞した場合などは大きな被害が生じると思われるため、流木による被害想定を追加検討する必要がある。	蔵王町の指摘する流木による被害想定については、今回追加検討し対策工としてとりまとめています。なお、本計画においては、「対策の基本的な考え方」に留意事項としてその旨追記しています。	P63
橋本 委員 (宮城県防災砂防課)	マグマ噴火時の融雪範囲について、科学的な手法として噴出物の初速でのヒストグラムや、分布図から算定することを検討する必要がある。	融雪範囲について、蔵王山においては実績の噴出物の濃集部を採用しています。	P33
巻 委員 (仙台管区气象台)	降灰の計算に用いる風速について、年平均風速を用いているが、年平均最大風速の場合についても被害想定に追加する必要がある。	過去1万年間で最大規模の火山灰(Z-T06等)の実績分布と今回の計算結果は概ね整合していることから、風速の設定は年平均を採用しています。なお、火山防災マップ作成指針においても、年平均風速としています。	—

第2回検討委員会における指摘事項と対応(2)

委員	指摘事項	対応	計画書該当P
井良沢 委員 (学識経験者)	ソフト対策に防災教育の充実や、観測機器にUAVの活用を追加する必要がある。	緊急調査におけるヘリ調査の項目にUAV(無人航空機)の活用について記載します。また、平常時準備事項に火山防災情報の周知啓発の項目を追加し、防災教育の支援や防災意識の向上に関わる活動について、火山対策以外の分野に係る防災に関する取組みについて例示します。	P84
西村 委員 (学識経験者)	防災上、避難経路への誘導や確認、避難訓練を実施することが重要であることから、計画上も考える必要がある。	<p>参考資料に火山防災教育に関する参考事例のURLリストを添付しました。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■中央防災会議 防災対策実行会議「火山防災対策推進ワーキンググループ」 http://www.bousai.go.jp/kazan/suishinworking/ ■火山防災教育や火山に関する知識の普及について(内閣府) http://www.bousai.go.jp/kazan/suishinworking/pdf/20150218siryo3.pdf 	P97,102